

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年6月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300666
法人名	有限会社 イーライフ
事業所名	グループホーム 明
所在地	鹿児島県鹿屋市祓川3982-1 (電話) 0994-43-0550
自己評価作成日	平成22年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com">http://www.kagoshima-kaigonet.com</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成22年5月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域に根付いた信頼関係を今後も保ちながら、色々な行事(七夕祭り・敬老会・家族会・消防訓練)を行い、一人暮らしの方への声掛け・訪問、認知症に対する啓発活動を行い、保育園・小学校との交流も益々発展させ地域の一員としての役割を積極的に担っていくよう努めている。

○利用者様に対しても、一人ひとりの人格を尊重した介護計画を作成し職員全員で取り組んでいる。

○日々の健康管理が充実し、訪問看護や在宅医療等、協力医療機関との連携もスムーズに出来ている。定期的な受診のほかに、必要時の他受診、緊急時の対応が円滑に出来ている。又、利用者一人ひとりの心身の変化を見逃さず細やかな支援を心掛けている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

① 経営者は平成15年の開設時より、地域交流の必要性について認識され、町内会に加入し地域の一員として地域交流の地盤を築いている。ホームの運営推進会議・火災訓練・七夕祭り・敬老会・餅つき・理髪など地域住民の協力者が多数いる。

② 管理者・職員は認知症やプライバシーの保護について研鑽しており、利用者との対話や対応がスマートである。信頼関係が築かれて利用者の表情や態度が穏やかである。

③ 協力病院、訪問看護事業所と医療連携している他、日々の健康観察に看護師職員の配置やバランスを考えた献立作成など医療、健康面の充実を図っている。

④ 建物は利用者の見守りがし易い造りで職員は常に利用者の位置確認をしている。居室で転倒の恐れのある人には鈴の活用をし、歩行の不安定な人には平行棒を備えている。歩行困難者の外出に車いす対応車を備えるなど安全面の工夫をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	安心・安全で穏やかな暮らし。又、健康で快適な温もりのある日々を送れるように認知症で支え、支えられるようなサービスを提供する理念を掲げて実践している。	地域の人と支えられたり支えたり出来るように理念を掲げ全職員で利用者が地域の中で安心、安全、温もりのある生活ができるように取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	集落の一員として、集落の奉仕作業、総会の場所提供、散歩時の保育園児の訪問、七夕祭りや敬老会などにも地域の方々が多数参加して下さり、日常的に野菜や菓子などの差し入れの方もいる。	開設時より自治会に加入し、地域の一員として活動し信頼関係が構築されている。利用者は地域に出かけたり、地域の方が訪問したり日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	独居老人・認知症の方への声かけ、行事・食事への招待、心配事などの相談。又、民生委員、地域包括支援センターなどとも連携し、認知症に対する話しなど集落で集まった時にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月に一回、多種多様の職を持たれた方々でホーム内の行事や処遇について報告し、推進員からも意見をもらいサービスに生かしている。又、地域の認知症の方や独居老人の方の報告も一緒に検討している。	それぞれ専門分野のメンバーが集り定期的な開催をしている。毎回ホームの詳しい報告がなされ、モニター役としてのメンバーの意見を受け止め火災対策、インフルエンザ対策、認知症セミナーへの参加などサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議などで、市町村担当者包括支援センターの方々とも顔なじみになり、気軽に交流ができ、質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>ホーム開設時より勤務している管理者は市町村とは相談し合える関係が出来ており、事業所の実状を話したり、分からない事を相談したり、連携している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全職員、身体拘束研修にも参加し、身体拘束に対する弊害も学んでおり、絶対に身体拘束しないとミーティングなどで話し合いケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員は身体拘束についての研修で知識や理解をしており、実践上で拘束の無いケアをしている。玄関に鍵をしないで見守りに注意した支援をしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束と共に、虐待防止も研修に行き、常に勉強会・ミーティングなどで人間としての尊厳を常に考え、日常の言葉かけも虐待にならないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>園外研修に何名かが参加し、それを職員全員で勉強会を実施し、知識・意識の向上を行い支援できる体制をとっている。</p>		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	前日に契約書の資料を渡し、家でよく目を通してもらう。管理者・ケアマネージャー・家族・利用者様と十分説明し、納得した上で契約してもらう。又、解約については長期医療が必要な場合は医師・家族・ホーム関係者を交え、利用者様の為になるように説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族や利用者様の方よりいろんな意見を聴くようにし、利用者様の方々が安心して暮らしてもらえるように年三～四回の家族会を行っている。ホームに対して活発な意見があり、運営推進会議でも報告・アドバイスなど頂き反映させている。	利用者や家族には訪問時に意見を聞くようにする他、家族会、運営推進会議などにおいてもお茶や食事をしながら何でも話せる雰囲気づくりを心がけ、出された意見をサービスに反映出来るように努力している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	入退所などミーティング・ケア会議などで職員の意見を聞いたり、利用者様の体調に合わせ、その都度みんなて話し合い、運営の事にも職員の意見を取り入れ反映させている。	管理者は業務中や日々のミーティング、月1回のケア会議において職員の意見や提案を常に聞く姿勢で対応し、意見をサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が働きやすい環境づくりを行い、勤務体制にも希望を入れ、全職員が常勤となり各自が日々のケアも考えて、利用者様中心のケア・向上心を持って働けるように常に整備に努めている。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員がホーム内外の研修に参加し、ミーティングやケア会議などで報告行い全職員で共有しキャリアアップにつなげている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者とも気軽に交流を図り、情報交換など行い、相互の訪問も気軽に行っている。又、グループホーム協議会でもネットワーク作りも出来ており、地域包括支援センターとも連絡を取っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に何回となく面会を行い、家族や本人からの生活状況を把握し、困った事などを聴き、馴染みの関係を作り、信頼に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談には時間をかけ、困っている事や今必要な事などを聴き、受け止める努力をし、家族が安心できる関係作りに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な時は、出来る限り柔軟な対応を行い、他事業所や地域包括支援の方々にも情報提供や相談など行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で一緒に料理を教えてもらったり昔の生活の様子などを聴いたりしながら安心して暮らしてもらう様に関係作りを行っている。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・家族会・季節行事等に参加して頂き、暮らしの様々な出来事を伝え、家族と一緒に情報を共有し支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの方に気軽に足を運んでもらえるように電話や便りなどをし、又、馴染みの理美容室を利用している。	管理者や職員は利用者の入居時のアセスメントや入居後の本人や家族から得た情報で馴染みの人に訪問してもらったり、便りの代筆をしたり、お墓参りなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の共通の話題やレクリエーション等いろいろな行事、地域の事など取り入れ支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院・他施設・自宅などへの面会・訪問、又、家族からの相談も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様・家族の要望や想いを聴き入れながら把握に努めている。意見など言えない方には、面会時や日常生活、コミュニケーションの中で見出し出している。	入居時の聞き取りや、入居後は日々の会話の中で思いを把握するよう努力し、ミーティングやケア会議で本人の思いを話し合っている。	全職員が利用者との日々の関わりの中で把握した思いや意向を全職員が常に共有できるようにシートの活用など工夫を望みます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	回想法や家族から生活情報を聞き、支援センターからの情報も共有しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活の流れやリズム、体調を見ながら自分で出来る事は自分でして頂ける環境を作る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てるにあたり、何回となく本人・家族の希望・要望を聴き、必要な計画を立て、本人・家族に十分な説明をし、納得して頂ける様に職員全員で取り組んでいる。体調等、変化が生じた場合、その都度計画の見直しを行っている。	計画作成担当者は本人・家族の希望や医師・訪問看護師・職員の意見を聴きながら介護計画を作成している。月1回のケア会議でモニタリングし、状態に変化が生じた場合現状に見合った見直しをしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の食事・水分・排泄・入浴・バイタルと細かく記録を記入し、介護計画の見直し等実践に活かし、全職員で共有しケアに活かしている。週一回の訪問看護により健康チェックと本人からの訴えも聞いて頂いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣の医療機関との連携を図り、往診や訪問看護の利用、終末期には家族が宿泊出来る和室があり、付き添う事ができる。又、終末でなくても宿泊出来るように配慮し、家族の方に安心して頂ける様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの行事や地域行事等お互い交流もあり、消防団・地域の自治体などの協力を得て消防訓練など普段から地域と連携を取っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回の定期受診を行っている。常に本人・家族の要望を聴き、必要時にはかかりつけ医に相談し、指示を仰ぎながら検査が必要であれば検査をして頂くなどして、利用者様・家族の方が安心して暮らしてもらえよう支援している。	利用者や家族が望むかかりつけ医の受診支援をしている。毎月4名の往診や家族に代わって受診の支援も行い、急な変化の場合も適切な医療が受けられる関係を築いている。	

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックで気付いた事を週一回の訪問看護や往診時に相談し、助言や支援をもらい全職員で共有し早めの受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院・家族・訪問看護と情報交換しながら支援している。入院時は安心して過ごしてもらう為、見舞いや家族の相談にも乗り、本人の状態を見ながら病院関係者とも情報交換し早期の退院ができるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期には家族・医師・訪問看護・職員が一丸となり終末ケアに向けた計画、ホームで出来る事、出来ない事など相談しながらその人らしく生活できるようにケアに向けた計画を立て、家族の同意のもと取り組んでいる。	重度化や終末期についての研修や看取りの経験も4名あり、今後も家族の希望に応えるよう取り組んでいくため、事業所の方針を作成し、家族に説明している。	今までの看取りの経験を活かされ、全職員が同レベルで関わられるように、職員の意識づけや技術向上に向けた研修をされることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、救急救命講習を受け、うち四名は上級救命を受講している。急変時には初期対応できる様に全職員がマニュアルもマスターしている。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・地域の消防団・地域の方々の協力をもらい、定期的に消火・避難訓練を行い、消火器の使い方を学んでいる。救急箱・非常食は常時準備しており、飲料水はボーリングしており、発電機も購入している。	防災意識が高く、地域協力者の確保、毎月の自主訓練、災害時の備え（発電機、食品、地下水、耐震装置の建物、スプリンクラー準備中など）をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長年生きてこられた方々への尊重を忘れず、言葉かけには十分に配慮している。誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけを行っている。	職員は異動もなく、毎月テーマを決めた年間研修計画にそって、認知症やプライバシーに関する研修の積み重ねから、利用者には尊厳をもって接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思・意向を日常生活の中で希望に沿った支援を心掛けている。外出・外食なども自ら場所・メニューと選んでもらえるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様がその人らしい表現が出来るように一人一人のペースで歌・会話・散歩・ドライブなどその人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者が希望される事を最優先し、理・美容室には昔からの行きつけの店を利用され、時々の理・美容のボランティアでも化粧・顔そりに喜ばれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間の献立を立てる時や、誕生会の献立を立てる時にも意見を聴き、取り入れるようにしている。下ごしらえ・配膳・下膳等できる事は一緒にしてもらいおやつなど出来るだけ手作りを一緒に作っている。	利用者の食べたい物の意見を一番大切にしながら、調理に参加できる人も少ない現状の中調理場の近くで作る動きや臭いなど雰囲気を楽しんでもらうようにしている。	

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者様一人一人の状態に合わせ、 水分量・食事量も毎日チェックをし ている。年一回栄養士に献立を見て もらい、アドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと毎日の義歯 洗浄を行い、困難な人には職員 が手伝いながら支援している。 又、利用者によっては歯科受診 も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	排泄チェックをし、自力で訴え が出来ない方には時間誘導を 行ったり、利用者様一人一人の プライバシーを傷つけないよう な声かけを支援している。	排泄チェック表でそれぞれの排 泄パターンを知る努力をし、自 立にむけて声かけや誘導の支援 をしている。おむつを使用して いた利用者が改善された実績も ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを毎日行い、便秘 気味の利用者様に対しては、食 事形態や牛乳、オリゴ糖などで 工夫し、運動、散歩でも対応し ている。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は毎日行い、その日の体調に合わせて清拭なども行っている。本人の入浴希望時間帯に入浴の支援を行っている。	ゆっくり入浴する人、毎日入浴する人、早く入浴したい人など把握しており、声かけや見守りをしながら入浴を楽しんでもらうよう臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や本人の希望で出来るだけ本人の好きな場所で休んでいる。又、夜間不眠の利用者様には園外散歩やレクリエーション参加等の支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が薬の目的や副作用、用法・用量について理解し、変更があった場合も申し送りノートや日誌で確認行っている。確実な服用の為、封を切ったり、又、困難な利用者様には口の中に入れ、飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな利用者様には一緒に料理や下ごしらえを行ってもらおう。本人や家族にも聴きながら好きな事や楽しみごとを見つけ出している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	月一回は温泉や外食、花見など出かけている。又、ショッピングやドライブ・墓参りなど自分の行きたい所などにも出かけられるよう支援している。ふるさと訪問を行い、顔見知りの方にも会われている。	天気や降灰、体調をみながら車椅子の人もホーム周辺の散歩を行い、地域の方と会話を楽しんでいる。買い出しの便乗や外食、自宅帰りなど車椅子対応の車を備えて気軽に出かけている。	

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物に行って、支払いの出来る方には支払って頂き、出来ない方は一緒に支払うように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は本人、又は職員の方でかけたり、家族からは取り次ぎなどをし、友人・家族に自由に話されている。手紙・年賀状・暑中見舞いなど書けない方には代筆で支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には行事・日常での写真を貼り、トイレ・浴室と工夫を凝らし利用者の声を聴きながら季節の花を飾ったり、音楽・テレビ・ビデオなどで居心地良く過ごして頂けるような工夫をしている。温度・湿度計も置いている。</p>	<p>ユニット間は玄関ホールにテーブルや椅子を設置し両棟の交流ができる。畳や床の作り、兜の置物、テレビ、ソファが家庭的で落ち着ける。ホールから眺める庭に花を植え鯉のぼりを泳がせるなど季節の工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自分の好きな場所やソファ・テーブルなどで利用者様同士で思いのまま過ごされたり、談笑されている。</p>		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスは備え付けとなっている。居室には写真や小物、鏡台やテレビなど持ち込まれている。利用者様がいつでも居心地よく過ごしてもらえるように工夫している。	家族には大切に使っていた馴染みの物を持ち込むよう呼びかけ、本人が使いやすく、安全な配置、清潔、換気と居心地の良い部屋の工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の活動に合わせて車椅子や歩行器、手すりなど設置し、移動の障害にならないよう配慮し、出来るだけ自立支援につなげている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
			1 ほぼ毎日のように

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>		2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	安心・安全で穏やかな暮らし。又、健康で快適な温もりのある日々を送れるように認知症で支え、支えられるようなサービスを提供する理念を掲げて実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	集落の一員として、集落の奉仕作業、総会の場所提供、散歩時の保育園児の訪問、七夕祭りや敬老会などにも地域の方々が多数参加して下さり、日常的に野菜や菓子などの差し入れの方もいる。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	独居老人・認知症の方への声かけ、行事・食事への招待、心配事などの相談。又、民生委員、地域包括支援センターなどとも連携し、認知症に対する話しなど集落で集まった時にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、多種多様の職を持たれた方々でホーム内の行事や処遇について報告し、推進員からも意見をもらいサービスに生かしている。又、地域の認知症の方や独居老人の方の報告も一緒に検討している。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議などで、市町村担当者包括支援センターの方々とも顔なじみになり、気軽に交流ができ、質の向上に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員、身体拘束研修にも参加し、身体拘束に対する弊害も学んでおり、絶対に身体拘束しないとミーティングなどで話し合いケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に、虐待防止も研修に行き、常に勉強会・ミーティングなどで人間としての尊厳を常に考え、日常の言葉かけも虐待にならないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	園外研修に何名かが参加し、それを職員全員で勉強会を実施し、知識・意識の向上を行い支援できる体制をとっている。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	前日に契約書の資料を渡し、家でよく目を通してもらう。管理者・ケアマネージャー・家族・利用者様と十分説明し、納得した上で契約してもらう。又、解約については長期医療が必要な場合は医師・家族・ホーム関係者を交え、利用者様の為になるように説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族や利用者様の方よりいろんな意見を聴くようにし、利用者様の方々が安心して暮らしてもらえるように年三～四回の家族会を行っている。ホームに対して活発な意見があり、運営推進会議でも報告・アドバイスなど頂き反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	入退所などミーティング・ケア会議などで職員の意見を聞いたり、利用者様の体調に合わせ、その都度みんな話合い、運営の事にも職員の意見を取り入れ反映させている。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が働きやすい環境づくりを行い、勤務体制にも希望を入れ、全職員が常勤となり各自が日々のケアも考えて、利用者様中心のケア・向上心を持って働けるように常に整備に努めている。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員がホーム内外の研修に参加し、ミーティングやケア会議などで報告行い全職員で共有しキャリアアップにつなげている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者とも気軽に交流を図り、情報交換など行い、相互の訪問も気軽に行っている。又、グループホーム協議会でもネットワーク作りも出来ており、地域包括支援センターとも連絡を取っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の開始前に、本人との面談の機会を持ち、本人の状況・要望など詳細な情報を得て本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始する前に、家族との面談の機会を持ち、不安な事・要望等を伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所のサービスが本人に必要であると判断した場合、本人・家族とも相談し、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活のあらゆる場面において、出来る事・出来そうな事を一緒にやり、関係を築く努力をしている。(そば打ち・味噌作り等)		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いに添えるようにホームとして出来る事、又、家族ならではの協力や支援をお願いし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の訪問の際には、くつろげる場所を提供し、自宅までのドライブやお墓参り等の支援にも努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係が築けるように過干渉にならず、見守り、必要な時にはさりげなく関わり、お互いを思いやり、いたわり合って暮らせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への訪問・面会等を行い、家族からの相談にもいつでも対応できるように努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、一人一人の思いや希望を汲み取る努力をしている。困難な方でも本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に至るまでの経緯や生活歴など詳細な情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方や心身状態等、記録や申し送り等でスタッフ全員が把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティングや申し送り等で、本人の課題や必要な援助を検討する機会を持ち、家族の意見も取り入れながら計画を作成している。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等個別に記録し、申し送りやスタッフミーティング等でも情報の共有に努め、プランの見通しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応できるように柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。(ショートステイ)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練や敬老会・花見等、地域の方々との交流の機会を持ち、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医への受診を行い、適切な医療を受けられるように支援している。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護やかかりつけ医との連携を密に取り、日々の健康管理や定期受診、必要時の受診等、適切に対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院の相談員や主治医からの情報をもらい、本人にとって最良の選択ができるような関係づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「看取りの指針」を作成し、入所時より本人・家族への説明を行い、施設として出来る事・出来ない事の説明等を十分に行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時応急手当のマニュアルを作成し、上級訓練への参加も定期的に行なっている。</p>		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応のマニュアルを作成し、定期的に避難誘導訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の情報は個別に管理し、一人一人の人格を尊重し、プライド・プライバシーを損なわないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に沿った支援ができるように心掛けている。 (外食時には、メニューから好きなものを選んでいただく。)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人、ニーズに沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	行きつけの美容院への送迎、美容師によるボランティア等、身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや盛り付け等、一人一人の好みや力を活かして食事を楽しんでいただく。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を細かく記録し、一人一人の状態に応じた形態で提供し、必要量摂れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、必要時には歯科受診も行い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄簿を活用し、一人一人の排泄のサイクル・パターンをつかみ、トイレでの排泄、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄簿を活用し、排便のサイクルを把握し、食事・運動・水分摂取等を促し、便秘の予防に取り組んでいる。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴を原則として、本人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむ事ができるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンを尊重し、眠れない時にはお茶を提供したり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を保管し、一人一人の正確な情報を理解できるように、又、症状の変化も察知できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意なことを活かし、家事手伝い、レクリエーション等に参加して頂いている。又、温泉や外食・花見等、気分転換の支援も積極的に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人一人の体調や天候をみて、近隣への散歩や訪問等行なっている。		

鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族とも相談しながら希望する利用者様には金銭を管理して頂き、必要に応じて購入の支援も行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望する利用者様には電話や手紙の支援を行っている。遠方に住む家族からの電話にも本人とゆっくり話すことができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下やホールには、利用者様の習字や工作・外出時の写真等を掲示し、又、湿度・温度・換気等環境にも考慮し、居心地の良い空間作りをしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人一人が自分にとって居心地の良い場所を持ち、自分なりに過ごせる居場所の工夫をしている。</p>		



鹿児島県 グループホーム 明

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には愛用していた鏡台や置物等を飾り、家族との写真も掲示し、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、一人一人の力に応じ、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1
			2
			3
			4
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1
			2
			3
			4
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1
			2
			3
			4
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1
			2
			3
			4
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1
			2
			3
			4
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1
		○	2
			3
			4
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1
			2
			3
			4
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1
			2
			3
			4

			4
64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>		1
			2
		○	3
			4
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	○	1
			2
			3
			4
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>	○	1
			2
			3
			4
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	○	1
			2
			3
			4
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	○	1
			2
			3
			4



ほぼ全ての利用者の
利用者の2/3くらいの
利用者の1/3くらいの
ほとんど掴んでいない
毎日ある
数日に1回程度ある
たまにある
ほとんどない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての家族と
家族の2/3くらいと
家族の1/3くらいと

ほとんどできていない
ほぼ毎日のように
数日に1回程度ある
たまに
ほとんどない
大いに増えている
少しずつ増えている
あまり増えていない
全くいない
ほぼ全ての職員が
職員の2/3くらいが
職員の1/3くらいが
ほぼ全ての利用者が
利用者の2/3くらいが
利用者の1/3くらいが
ほとんどいない
ほぼ全ての家族等が
家族等の2/3くらいが
家族等の1/3くらいが
ほとんどいない



## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 明

作成日 平成22年 6月 1日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営に関する利用者、家族等の意見の反映が難しい。	利用者、家族が安心して生活出来るように家族の協力を得て意見を伺いながら共に支援していく。	定期受診、異常時、日常生活面等その都度報告しているがその他、何を知り得たいかをアンケートを送付し意見をもらう。	平成22年7月～ 12月までの 6ヶ月間
2		思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握が難しい。	利用者一人ひとりの詳細な情報をとり、日常生活の中でも気づきや変化を見逃さずアセスメントに繋げていき暮らしや希望、意向の把握に努めていく。	“明”独自のワークシートを作成し利用者一人ひとりの詳細な情報をとり（生活歴・病歴・趣味・嗜好）受け持ちのスタッフは日々の暮らしの中で気づきや変化を見逃さず、記録に残しその情報をスタッフ全員で共有する。	平成22年7月～ 12月までの 6ヶ月間
3		重度化や終末に向けた方針の共有と支援	全職員が同じレベルで関わりが出来るように技術の向上。	医師、看護師より看取りに向けての研修を行い、他の施設からの情報収集も視野に入れながら家族、利用者が安心して穏やかに最後を迎える事ができるように支援する。	平成22年7月1日～ 平成23年6月30日までの 1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。